

Build Live Japan 2018 課題

2018年11月9日

Build Live Japan 2018（以下 BLJ2018）の課題は以下のとおりです。

1. 課題

BLJ2018 の課題は「3. 課題エリア開発の方向性」を踏まえ以下を実施し、これらの成果をデータ共有サーバーにアップロードする、というものです。

- ① 開発コンセプトを提案
- ② 住居、施設の内容、規模、敷地エリア内のレイアウトを計画
- ③ いくつかの住宅、施設について具体的に設計
- ④ それらの取り組みの中での BIM 活用についてレポート
- ⑤ 施設等の諸室毎の面積が把握できる ifc ファイルを作成

BLJ2018 の開始時刻に課題敷地の詳細モデルを公開しますが、開始前に課題へ取り組んでいただいてもかまいません。開発コンセプトやエリアの全体計画などは事前検討が可能です。BIM 計画書と BIM 連携図は、事前検討して開始時に提出です。

2. 課題敷地

課題エリアは、浦和美園駅近隣の都市再開発地区とする。課題エリアには、敷地（地図の青色部分）と生産緑地（緑色部分）がある。

敷地には適宜、住宅、施設等を計画することができる。

生産緑地には原則、建物を計画することはできない。

既存道路以外に歩行者通路を設けることができる。



敷地などの形状は、BLJ2018 開始時に配布する土地 IFC ファイルに含まれる敷地境界線を正とする。（実際の土地形状とは異なる）

敷地境界線の入った課題敷地 IFC ファイルは、BLJ2018 開始時にデータ共有サイトから配布する。

3. 課題エリア開発の方向性

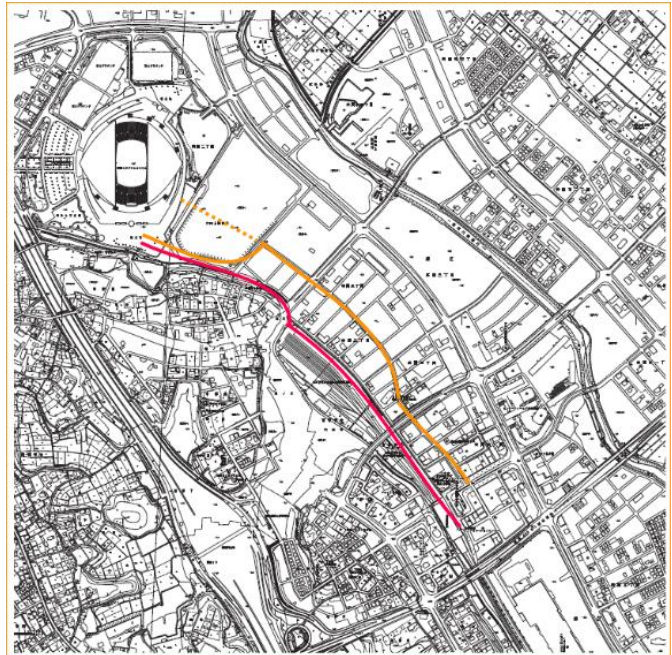
課題エリアの開発の方向性は、「いつまでも住み続けられる街の計画」、「サステイナブル」。
その方向性を目指すためのキーワードは以下。

「ライフサイクルにおけるライフスタイルの変化への対応」、「バイオクライマティックシティ」、
「シェアコミュニティ」、「生産緑地の活用」、「地産地消」など。

また、近隣に「埼玉スタジアム 2002」がある。スタジアムは試合開催日だけでなく、それ以外の日には公園として利用するなど、対比にも配慮すること。

現在のスタジアムと浦和美園駅間の観客動線は、課題エリアの西側にある操車場の中を通過するルート（右図赤線）だが、将来的に課題エリア中央を南東から北西へ貫く道路（橙線）を利用する。

一般的に、不特定多数が通過する通路と居住エリアは隔絶させるが、ここでは、隔絶するだけでなく、人の流れを地域を活かすシナジー効果を目指す提案が望まれる。



4. 近隣の状況と計画

課題エリア近隣は次のような状況にある。都市計画（将来の計画）や地図等で確認のこと。

- 浦和美園駅の反対側に大規模なショッピングモールがあり、課題エリアの近隣に商店街は無い
- 課題エリア北西側に大規模病院が計画されている
- 課題エリア北西側に小学校が建設中である
- 課題エリアの南側の浦和美園駅と北西の埼玉スタジアム 2002 を結ぶ参道として、課題エリア内の南東—北西の道が使われる
- 近隣（ショッピングモールの南側）にメガソーラが計画されている

5. 提出物

- 事前にチームのメンバーで BIM の進め方に合意し、BIM 計画書 (nn_BEP.pdf) と BIM 連携図 (nn_SOFT.pdf) を作成する
- BLJ2018 開始時 (12/3 13:00) を目途に提出する

- 課題エリアについて、上記「課題エリア開発の方向性」を踏まえたコンセプトを提案する
※人口構成、所要施設、生活のスタイルなど
- コンセプトを踏まえたエリアの開発を具現化する施設、活用イメージを提案する
- 課題エリアに施設をレイアウトする
- 「いつまでも住み続けられる街の計画」となるように長期計画を作成する
- エリア全体計画 (nn_master.pdf) にまとめて提出する

- 課題エリア内の街区ないしは施設について、詳しく計画案を作成する対象を適宜選択する
※対象とする数、規模、所要室などの指定はありません。
- 計画案の機能説明、機能配置図、平立断面図、パースなどを作成する
- 施設計画 (nn_plan.pdf) にまとめて提出する

- コンセプト作成や計画案作成時の BIM 活用の状況を説明する資料を作成する
- BIM 活用説明 (nn_bimact.pdf) にまとめて提出する

- 施設計画案モデルに諸室を示す情報を付与し、諸室名と諸室面積が取得できる IFC ファイルを作成する
- IFC ファイル (nn_rooms.ifc) を提出する

※nn_は参加登録後に応募チーム毎に番号を通知する

6. 法規

当敷地に適用される建築関連法規、条例は現況の通りとする (学生チームは適宜適用)

7. キーワードの補足

- シェアリングコミュニティによるコミュニケーションの活性化、見守り

- 生活空間（台所、リビング、トイレ、風呂、庭、路地、…）、移動手段（自転車、自動車、…）のシェアリング
- ライフサイクルに応じた生活に密接に密着する施設（保育園、幼稚園、小学校、サテライトオフィス、高齢者支援施設、高齢者入居施設、…）
- BIM モデルを基盤とし、デジタルを活用した自動化

※本課題は Build Live Japan 2018 に向けた仮想のものです。実在する土地の計画とは無関係です。

※追加、補足等は公式 Blog (<http://bljapan2018.seesaa.net/>) にて公開します。

※Build Live は buildingSMART Japan の登録商標です